

年間第二十三主日

2014.9.7

マタイ 18・15-20

「あなたがたが二人または三人が私の名によって集まるところには、わたしもその中にいる」。今日の福音のイエスのみことばです。このように言うてくださるイエスの招きに応じて、今日も私たちはこのミサに参加させていただきました。ミサは回心の祈りから始まらざるを得ません。私たちは誰一人このミサに参加するにふさわしくはないからです。それぞれの道を歩んでいた私たちはその道の途中で呼び止られ、父なる神がその御このために催す婚宴の席にたとえられる教会の懐の中に呼び集められたのです。婚宴の席に連なるためには用意されている晴れ着を身に着けなければなりません。普段着のままで神が用意してくださった晴れの婚宴の場にはふさわしくないからです。真の回心のためには、喜びの婚宴に招かれていることの喜びに気づいていなければなりません。普段の労苦の日々から解き放たれた安息日の雰囲気味わうゆとりを持っていなければなりません。安息日の憩いの雰囲気の中で、私たちは日々の自分たちのありようをあらためて振りかへて見るゆとりを持つことができるからです。わたしたちの回心は神が用意してくださった婚宴の晴れの喜びを味わうゆとりを持っているかどうかにかかっています。回心は自分たちのこれまでのありようを反省することよりも、神がわたしたちのために行っていてくださることに心を向けることができるかどうかにかかっているのです。ともに回心の祈りを唱えることによって、ゆるされてあることの喜びに満たされましょう。こうして、わたしたちは婚宴の喜びの招きにふさわしい晴れ着を身に着せ掛けていただくことができるのです。神のおおなるあわれみによって生かされたある喜びに満たされて、神のあわれみをたたえてあわれみの賛歌といかなるものにも新たないのちを恵み与えあるわたしたち人間を救うことによって示されている神の栄光を賛美してともに栄光の賛歌を力強く歌いましょう。

教会のはじめに、十字架の死を越えて復活され、御父の右の座に付かれた主イエス・キリストが吹き込んでくださった聖霊に満たされて使徒たちは人の世に遣わされました。そうして自分たちが経験することのできたこの世な最も貧しいものをお選びになる神の選びの神秘を人々に宣伝して行ったのです。わたしたちの教会は神の広大無辺のこの招きによってこの地上に誕生したのです。沿いてそれは今もこの席の全ての人に向けて宣伝続けられているのです。私たちはそのような教会の中で使徒たちに与えられた示しを受け継ぐ榮譽を担っているのです。底意からわたしたちの新たな祈りが立ち上がってきます。そしてわ

わたしたちのその祈りは、「あなたがたが二人三人集まるところ炉にはわたしもその中にいて、二人がこの地上でここを一つにして求めるなら、天の父がそれをかなえてくださる」とのわたしたちの主イエス・キリストの保証のみことばの下にあるのです。そのようにして、わたしたちの教会はイエス・キリストによってこの世界に建てられた教会として成長してゆくことができることでしょう。そのために今日も心一つにして祈りましょう。

「二人三人がわたしの名によって集まるところにはわたしもその中にいる」と言われる主イエス・キリストは今日もこのミサの中に共にいてくださり、わたしたちに語りかけておられます。そして十字架の上に捧げられたそのいのちをわたしたちに分かち与えてくださるのです。弟子たちと共にされた最後の晩餐のみことばが示していたように、イエスの十字架の死によってわたしたちに分かち与えられるいのちのパン新しい契約の血が今日もわたしたちに分かち与えられるのです。

コリントの教会にあてた手紙の中でパウロが述べているとおり、私たちは今日も、ご聖体を拝領することによってイエスの死を告げ知らせるのです。イエスの死は十字架の死です。それによって、ご自分の最愛の独り子をお与えになった神の愛を世の終わりまで告げ知らせるのです。これがわたしたちの教会の使命です。高齢化に伴うわたしたちの教会の人数の減少を嘆くことはやめましょう。わたしたち全てのものがたとえ二人三人になってしまったとしても、世の終わりに至るまでイエス・キリストによって建てられた教会はその使命を果たすことに事欠くことはないのです。

このミサに招かれたわたしたちは何よりもその喜びに満たされて、主キリストがそのはじめにわたしたちの教会に託された使命を果たしてゆく決意を新たにいたしましょう。わたしたちは皆兄弟姉妹なのです。兄弟の間に持ち上がるあらゆる問題を、神の愛のゆるしに委ねて、わたしたちの使命に邁進してゆきたいと思います。

カトリック高円寺教会  
主任司祭 吉池好高